

定賜國造と三えとる此人なり。同御世。大島國造
もこの兄多毛比命此子定賜へ由同紀伊狹知
より。又胸刺國造岐閉國造祖兄多毛比命岐閉國造祖と
直定賜國造と三えとる。此に文比錯乱脱誤あるを
以字あるを心得り。此に文比錯乱脱誤あるを
由但此時を以て國造と為さきは其前の事
りな。○知々夫國造上祖天上腹天下腹人等知々夫
不知名抄武藏國郡名。秩父知々夫國造本紀に知
々夫國造瑞籬朝崇神御世八意思金命十世孫知々
夫彥命定賜國造神祠大神也見元天上腹天下腹人
等。天神本紀。饒速日命天降の時供奉の神三十
二軀此中。天表春命所智祝部等祖。天下春命八

清安云贈の川
 義は鮮肉を酢
 して食ふなり
 ナスといふ
 ナスといふ

思兼神兒武藏と見えり。天、上腹天、下腹人
秩父國造等祖。春と腹と通。其裔孫此族を。然呼ぶが
等といふは春と腹と通。其裔孫此族を。然呼ぶが
在つるあるを。○為繪及煮焼雜造盛天繪ハ尋常
のごとくナラス。字鏡。鰓膾肉也。奈乃
奈万須。奈乃字。字鏡。鰓膾肉也。奈乃
万須。万葉集卷十六の長歌に。吾奈者御奈麻須
波夜志。奈乃字。字鏡。鰓膾肉也。奈乃
物といへるを受て。もてり。鰓魚。蛤の二種を以て。
書紀。白蛤。有膾而進之。及煮焼ハ其二種也。其の
他。氏録。難造盛天と云ふ。照應。文なり。因

波之依も。同物と。意得。推量。定。量。○高次八枚
刺作。見真本。葉天。枚。次。八枚。刺作天。

作。本。河。本。に。誤。り。今。字。と。も。諸。本。と。は。脱。字。あり。秘。抄。に。依。る。

字。月。令。秘。抄。に。依。る。の。利。成。丸。と。作。る。本。河。本。に。一。と。一。と。刺。

ろ。判。と。作。る。の。草。體。なり。秘。抄。一。本。比。一。と。改。む。

又。下。の。判。と。作。る。の。利。成。丸。と。作。る。本。河。本。に。一。と。一。と。刺。

ハ。下。文。又。ハ。平。次。と。書。り。比。良。須。伎。と。も。む。る。一。須。伎。と。

古。事。記。万。葉。集。天。武。紀。に。次。此。須。伎。大。嘗。祭。式。小。供。

神。御。雜。物。者。大。膳。職。所。備。多。加。須。伎。八。十。枚。高。五。寸。五。

熬。海。蓋。折。五。兩。魚。脂。一。升。海。菜。十。兩。塩。五。勺。並。居。葉。

須。伎。八。十。枚。高。及。口。徑。裝。饌。具。多。加。須。伎。同。但。見。え。

と。里。瓦。屋。て。此。供。奉。さ。ま。を。當。昔。小。免。を。言。し。了。れ。も。

高次八枚

刺作天

平次と書り

比良須伎

大嘗祭式

須伎八十枚

高五寸五

並居葉

見え

了れも

見え

項なりき。椀葉のモミチキ。真木の青葉
に映え美ハしきを見興て。殊さうにその小枝を採
来さるのさるなり。見河曲山椀葉と云ひて採
心も後次にも見真木葉と云ひて。同山のモミチキを採
き由ありきと云。又此次も取日影云。以補葉云。
採麻佐氣葛云々。と言を替ふる古文のさま。いひえ
らげ免て多し。○取日影互為縹カサト。互字初抄に依りて
と作里。此二様古書どもは通て。已下六獨命の
書。心於きもある。一。已下六獨命の
装儀。此状あり。日影も古事記に。手次繫天香山之天
之日影而。日本紀神代卷。以羅ヒコカ。羅カ。此カ。軒カ。礮カ。為手紐古語

拾遺。以羅葛ヒコカ。羅カ。可カ。氣カ。為手紐。と見え。大嘗祭式齋服
條。親王以下女孺以上。皆日蔭。髪四時祭式供新嘗
料物の中。日蔭二荷と見え。萬葉集十九新
嘗會肆宴の時。此歌。大伴家持。足日木乃夜麻之多
日蔭。可豆良家流。と見え。日影。こきふり。齋宮式供
日蔭。日蔭二荷。由。和名抄。祭祀具。小羅。髪。日本紀
私記。云。以羅。為。髪。和名。此。加。加。都。良。印。本。と。書。る
え。條。目。小。羅。髪。と。あ。る。但。し。日。本。紀。神。代。卷。諸。本。悉。以。之。
小。羅。為。手。紐。と。あ。り。引。つ。但。し。日。本。紀。神。代。卷。諸。本。悉。以。之。
此。日。本。紀。の。本。文。と。あ。る。後。世。に。羅。を。髪。と。用。ふ
此。日。本。紀。の。故。り。故。り。文。と。あ。る。祭。具。に。羅。髪。を。比。加。介。加。介。

都良と云々古言の證と云はし。と見えよはるこ
加都良を葛の義と云非は
きよて。六猶命に此物を取て鬘と云もよあり。さ
てその日影をおのき都に在ると。或公家がまの御
内人谷森種松の云あり。日影も今も依の山城北
東山。北山まゝ男山。此處愛宕の山に樹下ふとの
苔生をぼり星の處に生ひ出て。地上に以て長く延
回する蔓草あり。小枝参差を継と云もよきて。葉と
以て依をよのて。蔓ごめは皆鬘の末むりりて繁
く着多し。色も縁よて清く美しく。採置て程経きど。
色あをけりて在るものなり。これを土人ともふ

て此軒礙と云守り。さて其年歴と云は。本蔓の根
尋常の箸むかひもふりて引試るは強くて。裸
はとよとく堪ふべきものなり。古事記云は。手次
は繫くと見えよは日影も免てよきふを。とらる
は此氏文は縷と云はとあるも。其の若くて細きを採
りて縷として垂多るなほはし。家持卿の新嘗會に
仕奉りて。山下日影か初らきるとよ集る歌に萬葉
集に見えよはもよきふはし。屋がそその日蔭を
採来て見せ多るを觀きむはよ前よいよはつと
し。又いよ今御世も大嘗祭。まゝ年毎の新嘗

の國上の山にへるどく。處々ありときこゆき。知らぬに此の山に多かりぬべきを。唐韻云。蘿。蘿何反。日本紀和女蘿也。而之松蘿。雜要決云。松蘿一名女蘿。一云佐流乎加世。と別條は舉多るを。唐韻云。蘿女蘿也。と心ひ。雜要決云。松蘿の一名をも女蘿と云ず。漢名の異説は拘泥。和名の比加介をも萬豆乃古介。まゝ佐流乎加世と母心ふる。此と同物なりと心得多る。既而僻事あり。本草和名にも。松蘿一名女蘿。決と同し。云々。末都乃古介との三あるをも證とて信し。さて松蘿は深山の茂まる老松は。松

て生る苜ふから。細き蔓草なり。枝は垂懸き。るものみ。古今集の物名。はかり苜とあるもこれ。今も然心存。此物も細く弱く。穉も堪ふ。屋きそのありけ。おのき前も古事記傳の日記もあり。前の穉は。此説も隨ひて。ある考る。とをさし。強説ありけ。思ひ直し。種松の説。○以補葉天美頭良字卷。補ハ本草和名。蒲黃加末乃波。奈。和名抄。唐韻云。蒲草名。而敗蒲席布留岐加末。似。蒲。可以為席也。加末。古毛ふと見え。加末。是。字も補蒲通。作。美頭良。和名抄。髻唐韻云。髻髮也。和名毛止。利。四聲字苑云。髻屈髮也。和名美豆良。一云訓上同。

古事記。伊邪那岐命の御装を刺左之御美豆良湯
津の河梯と見え。上代に男子も髪を左右に分て
結縮當るを美豆良と云す。萬葉集に角髪と作る

。其左右にあり角のおさくある故に然書ふな
り。さて其髪を蒲葉をとて巻装ひあるあり。下文に
年三宅連意由。以木綿代蒲葉天美頭良初卷。此
以兼用木綿云こと見え。その時より件の古風を
改多るなり。不其書紀に。以蒲為手襪とあり。因
処を云ふ。合其書紀に。中。古より腹懸と。蒲を
組て手襪と作る。此の農氏の中。古より腹懸と。蒲を
懸る。河通らむ。便と。手襪の。さ。その蒲。水
水中にあり。出たるところ。腕と。腕と。強。と。聞。と。

云へり。この事。因。書。添。つ。採。麻。佐。氣
既。天。多。須。岐。仁。加。氣。為。帶。天。字。初。秋。玉。手。と。作。也。然。此。以
け。あ。る。は。其。記。と。多。須。岐。互。と。加。氣。の。下。細。抄。一。本
又。谷。川。本。に。加。氣。を。多。須。岐。互。と。加。氣。の。下。細。抄。一。本
し。異。ふ。れ。む。多。須。岐。互。と。加。氣。の。下。細。抄。一。本
奉。大。后。詔。之。約。也。字。を。畧。記。て。云。と。書。不。時。為。供
下。の。分。書。豊。日。連。後。也。ま。載。せ。多。里。書。紀。繼。體。卷
の。歌。は。磨。左。葉。逗。囉。と。ある。あり。イ。葛。を。豆。良。と。云

み。以。多。里。古。事。記。に。為。鬘。天。之。真。析。而。さ。ま。を。古
語。拾。遺。に。以。真。碎。葛。為。鬘。と。云。す。造。酒。式。大。嘗。祭。供
神。料。物。中。に。真。前。葛。三。擔。古。今。集。採。物。歌。に。み。や。ま。と

と霰降らし。外山ありはさたのかげら色つたふけ
梨ふと見えきねもあきりて。木の麻佐伎を麻佐氣
とも通し云なるあり。このよめと木のを岡部翁
の既に常葉木を真栄樹といふかまぐ。常葉なる葛
をたふて真栄葛と云ふ。幸と栄とをひとつよひふ
て古の常あり。はさきのうづら色づきにたりとを
免はす。十月の頃古葉のうつしく色づくものあ
るを云ふ。冠辞考古今集打聞の既に見えきと。己
がおもふところも。真栄樹も必しも常葉樹なりは
とも。時節は合ひる葉の栄え美もきをいふべく。

真栄葛といふは其と同じ趣より。葉の栄え美はし
きをいへるあり。後乃世此ごとく。草木の在瓶をこ
まうに見とわし別つことハさず。きうち見と家
うへふとも然ハいへるる盛し。きてえりのまま
ま此うづら色づきにたりとをめぬ。真栄なりつ
る葛の色づきとをといへるに。一首の感も深く
此に由るを。うねりもかきもして證考より。古事
記天石屋の段。為雙天之真拆とあり。古語拾遺
同段に。以真辟葛為雙とあるをねまふよも。葛字の
脱くるまで。旧も真拆葛とありなり。古語に

主と阿る葛といふ名を畧きて。徒に真折といふを
きまハ阿るをいふ。外宮儀式帳二月例の條に。始子
時の事を。諸稱宜内人等波。真佐支乃。雙為。亞自山下
未氏云と見え。内宮儀式帳同條に。同事を載さ
るに。須佐之命。為。互。下。来。云。見。え。り。こ。ハ。真。榮。の
葛。を。雙。と。為。る。恒。例。の。重。き。る。ら。葛。を。畧。して。真。榮。の
佐支の鬘と云ひならへる。鬘のさるる。又。お。も
の。頃。山。は。其。葛。を。採。り。鬘。と。さ。る。も。て。又。お。も
真。榮。の。鬘。なる。こと。の。義。は。以。て。鬘。と。さ。る。も。て。又。お。も
ふに。まさきハ。真。榮。の。義。を。採。り。鬘。と。さ。る。も。て。又。お。も
といふ。ま。さ。き。を。い。ふ。こ。ゝ。ハ。麻。佐。氣。と。い。へ。る。ハ。本。語。に
了。麻。左。棄。といふハ。轉。り。て。い。ひ。さ。む。り。も。い。は。り
む。あ。ら。ら。バ。真。折。真。辟。ふ。ど。う。も。い。は。る。と。麻。佐。氣。と。い。は。る

む。と。い。は。る。う。ら。い。と。さ。す。此。葛。は。禊。禊。懸。く。御。饌。を。料。理
に。ま。さ。き。帶。の。毛。を。畧。なり。○足。纏。手。結。天。足。纏。を。阿。由
比。と。い。は。る。古。事。記。允。恭。段。に。宮。人。の。阿。由。比。比。小
鈴。云々。此。歌。書。紀。の。安。康。書。紀。雄。略。卷。上。眉。輪。王。の
更。に。依。り。兵。子。起。して。圓。大臣。の。宅。を。圍。む。と。い。は。る
ゆ。時。ハ。大臣。出。立。於。庭。索。脚。帶。時。大臣。妻。持。来。脚。帶。愴
矣。傷。懷。而。歌。曰。臣。の。こ。も。帛。の。袴。子。七。重。着。し。庭。に。立
して。阿。由。比。比。結。を。か。く。も。り。を。形。堂。次。も。荒。木。田
久。老。神。主。の。書。紀。歌。解。に。徒。皇。極。卷。上。蘇。我。大。臣。蝦。夷
を。も。り。空。て。委。考。説。り。り。皇。極。卷。上。蘇。我。大。臣。蝦。夷
立。已。祖。廟。於。葛。城。高。宮。而。為。八。佾。之。舞。遂。作。歌。曰。大。臣